

Economic Indicators

発表日: 2025年2月28日(金)

鉱工業生産(2025年1月)

～生産は3か月連続の低下～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

(単位: %)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
24年	1月	▲ 6.7	▲ 1.5	▲ 7.5	▲ 1.7	▲ 1.7	▲ 1.8	2.6	0.8	▲ 4.9	2.7	▲ 5.2	1.3
	2月	▲ 0.6	▲ 3.9	▲ 0.7	▲ 4.7	0.6	▲ 1.7	▲ 5.6	1.9	▲ 4.1	▲ 5.1	▲ 1.9	▲ 2.5
	3月	4.4	▲ 6.2	4.7	▲ 6.8	1.0	▲ 1.0	7.6	6.8	7.9	▲ 4.2	4.1	▲ 6.0
	4月	▲ 0.9	▲ 1.8	▲ 0.4	▲ 1.4	▲ 0.2	▲ 2.4	▲ 0.7	0.5	▲ 0.1	3.1	▲ 0.9	▲ 1.3
	5月	3.6	1.1	3.9	1.3	0.9	▲ 2.1	▲ 1.2	▲ 1.5	0.9	▲ 0.6	8.3	2.7
	6月	▲ 4.2	▲ 7.9	▲ 4.7	▲ 8.1	▲ 0.7	▲ 2.7	1.7	4.8	▲ 10.6	▲ 13.5	▲ 5.4	▲ 5.0
	7月	3.1	2.9	2.7	2.0	0.4	▲ 2.5	▲ 2.4	▲ 3.9	7.0	1.9	1.5	2.9
	8月	▲ 3.3	▲ 4.9	▲ 4.1	▲ 6.5	▲ 0.8	▲ 2.2	5.3	5.9	▲ 4.1	▲ 7.3	▲ 3.0	▲ 3.7
	9月	1.6	▲ 2.6	2.4	▲ 4.2	0.1	▲ 1.3	▲ 3.8	3.0	▲ 2.1	▲ 6.5	0.2	▲ 3.3
	10月	2.8	1.4	2.6	0.4	0.0	▲ 1.3	▲ 0.9	▲ 0.4	11.0	4.5	5.6	2.4
	11月	▲ 2.2	▲ 2.7	▲ 2.5	▲ 3.6	▲ 1.0	▲ 2.2	3.2	2.7	▲ 2.4	0.5	▲ 2.5	▲ 1.9
	12月	▲ 0.2	▲ 1.6	0.2	▲ 2.7	▲ 0.7	▲ 2.0	▲ 1.4	2.1	3.9	1.9	▲ 3.1	▲ 1.9
25年	1月	▲ 1.1	2.6	▲ 1.5	2.0	0.9	0.5	0.3	1.1	▲ 11.0	▲ 6.2	1.9	3.9
	2月	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3月	▲ 2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注) 25年2月、3月は、製造工業生産予測調査の数値

○生産指数は3か月連続の低下

経済産業省から公表された25年1月の鉱工業生産は前月比▲1.1%と、ほぼ事前予想通りの結果となった(市場予想コンセンサス: ▲1.2%)。前月の12月結果が確報値で下方修正(同+0.3%→▲0.3%)されたこともあり、これで3か月連続の低下となった。経済産業省による基調判断は「一進一退」に据え置かれたものの、鉱工業生産は弱い動きが続いている。

1月の生産を業種別にみると、生産用機械が前月比▲12.3%(寄与度▲1.12%pt)、電子部品・デバイスが同▲5.4%(寄与度▲0.32%pt)、電気・情報通信機械が同▲3.1%(寄与度▲0.27%pt)となり、全体を押し下げた。特に、2ヶ台の急減となり押し下げ寄与の大きい生産用機械は、同時に公表された生産予測指数によると、2月には+14.0%とふたたび上昇に転じる見込みとなっており、振れが大きい状況が続く。もっとも、実際の数値は予測指数を下振れしやすい傾向があるため、2月の上昇は割り引いてみる必要があるだろう。生産用機械は、世界的なIT需要の減速や国内の機械投資が冴えない中で、10-12月期の急増(前期比+12.1%)の反動減が1-3月期に出やすい状況であることを踏まえると、先行きも力強さは期待できない。

一方で、自動車工業が同+6.9%(寄与度+0.88%pt)と高めの上昇となった。同時に公表された生産予測指数では、2月(+0.4%)に小幅ながら上昇が続いたあと、3月(▲4.1%)に低下に転じる見込みだ。自動車工業は、24年中は四半期ごとに増産と減産を繰り返す状況が続いてきたが、仮に2月、3月が生産予測指数通りとなると1-3月期は前期比+2.9%となり、2四半期連続のプラスとなる可能性が出てくる。もっとも、自動車輸出のウェイトが大きい米国の関税政策には不透明感月億、輸出部門の重石となる可能性もあることから、先行きには注意が必要だろう。



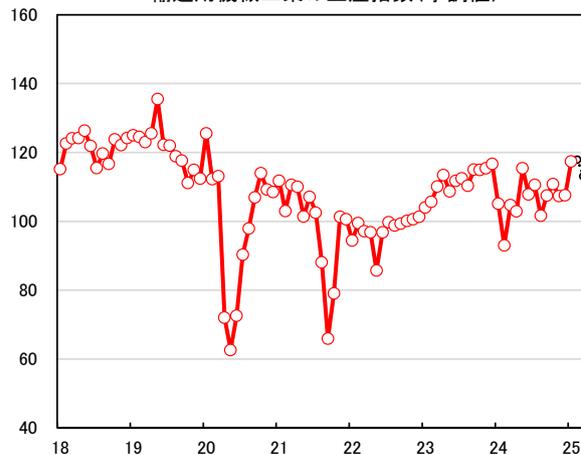
○ 1-3月期も一進一退の動きが予想される

同時に公表された製造工業予測指数は、2月が前月比+5.0%、3月が同▲2.0%となった。もっとも、予測指数には上振れバイアスがあるため、このバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値で見ると、2月は同+2.3%の上昇に留まることとなる。3か月連続で低下してきた後であることを踏まえると、物足りない。輸出部門も低調な推移が続く中、上述した通り10-12月期を牽引した生産用機械で反動減が出やすいことや、世界的なIT需要の一服によって電子部品・デバイスの減速感も強まることを考えると、先行きの鉱工業生産も一進一退の動きが続くとみられる。生産の牽引役が不在の中で、停滞感の強い動きが続くだろう。

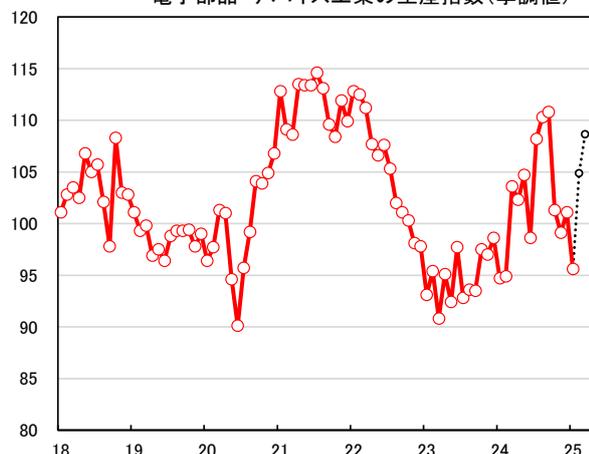
(20年=100) 鉱工業生産指数(季調値)



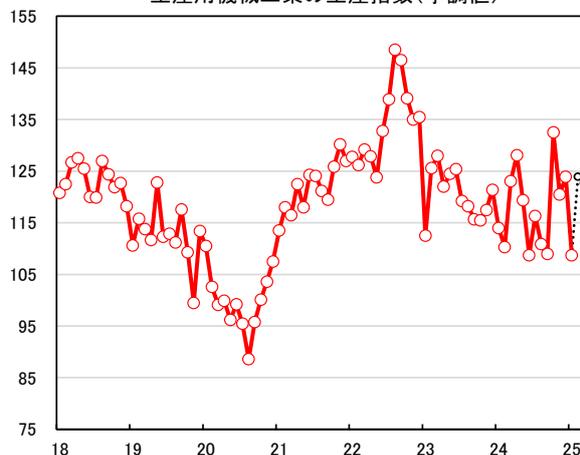
(20年=100) 輸送用機械工業の生産指数(季調値)



(20年=100) 電子部品・デバイス工業の生産指数(季調値)



(20年=100) 生産用機械工業の生産指数(季調値)



(出所)経済産業省「鉱工業指数」(注)黒波線部分(25年2月、3月)は、製造工業生産予測調査の数値で先延ばししたもの。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。